

第2期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略 意見募集結果

【案件名】「第2期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について」

意見提出期間		令和2年2月21日(金)～3月11日(水)
結果公表日		令和2年4月1日(水)
意見等の提出件数		提出者 4名、提出項目 6件
意見等の提出方法		メール 2名 持参 2名
No.	意見等の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>(具体的な施策の提案)</p> <p>●基本目標5「施策 No. 40. 文化情報発信拠点としての図書館の機能の拡充」について、具体案がないように思いますので、提案をさせていただきます。</p> <p>現在、月に一回、「コンピュータを使わない、コンピュータとプログラミング入門」という会を3名のメンバーが開催主体となり行なっています。2020年4月から小中学校にて順次プログラミング教育が始まりますが、「施策 No. 39」のうちの「夢や希望を持って、世界に羽ばたく子供を～」という目標において、プログラミングに関する知識と経験は大きな役割を果たせるものと思います。その点において、協力をできるものと思います。仮にの話ではありますが、大月市からの援助がいただけるようであれば、すでに作成済みの課題の製本なども含めて、より大きな活動に繋がられるかと思えます。</p> <p>会の主催: アンブラグド・プログラミング・パーティ@大月 (UPPP@大月)</p>	<p>具体的施策No. 40「文化情報発信拠点としての図書館の機能の拡充」とは、その下の「・」にあるように、「様々なイベントを企画し魅力ある図書館運営に努めていくと同時に、図書館本来の目的として求められる図書の充実に努めていきます。」とするものであり、本計画の具体的施策No.40の中に、様々な取り組みが含まれていることから、個別の事業となるご提案を市の計画の施策として掲げることはしていません。</p> <p>しかしながら、現在、市立図書館では貴団体の活動を含めて多くの方々のサークル活動の場として利用していただき、個々に文化情報を発信していただける環境作りにも努めております。</p> <p>これは、図書館としての利用目的に整合する事業を多くの方々に実施していただき、その方々から個々に情報発信がなされ、その情報によって、市民の皆様には「図書館を身近なものと感じていただきたい。」と考えるものであり、図書館を利用される皆様が醸成する「身近な図書館」の雰囲気や図書館に人を引き入れるという好循環を期待するものであります。</p> <p>現状において貴団体への援助は難しいですが、今後も「魅力ある図書館」としての貴団体の活動にも期待するものであり、文化情報発信拠点としての図書館事業に対して側面からの力添えをお願いします。</p>
2	<p>(具体的な施策の提案)</p> <p>●基本目標5「施策 No. 40. 文化情報発信拠点としての図書館の機能の拡充」について、具体案がないように思いますので、提案をさせていただきます。</p> <p>世界的に図書館におけるボードゲームを用いた知育が話題となっています。【つきこん】は、大月市に唯一存在するボードゲームやテーブルトークRPG (TRPG) を遊ぶ会を主催しています。図書館における知育という流れを念頭に、これまで岩田邸で行なってきた会の会場を、市立図書館に移すことを計画しています。これは、市民会館に適当な大きさの部屋がないこと、および利用料も関係しています。この点についても、大月市および市立図書館と協力関係を結ぶことができる用意があります。仮にの話ではありますが、大月市あるいは市立図書館との協力関係が結ぶことができれば、開催回数を増やすなど、児童・生徒に向けての活動の拡充が可能だろうと思えます。</p> <p>会の主催: 大月アナログ・ゲーム・サークル (【つきこん】)</p>	<p>具体的施策No. 40「文化情報発信拠点としての図書館の機能の拡充」とは、その下の「・」にあるように、「様々なイベントを企画し魅力ある図書館運営に努めていくと同時に、図書館本来の目的として求められる図書の充実に努めていきます。」とするものであり、本計画の具体的施策No.40の中に、様々な取り組みが含まれていることから、個別の事業となるご提案を市の計画の施策として掲げることはしていません。</p> <p>しかしながら、市立図書館では多くの方々のサークル活動の場として利用していただき、個々に文化情報を発信していただける環境作りにも努めております。</p> <p>これは、図書館としての利用目的に整合する事業を多くの方々に実施していただき、その方々から個々に情報発信がなされ、その情報によって、市民の皆様には「図書館を身近なものと感じていただきたい。」と考えるものであり、図書館を利用される皆様が醸成する「身近な図書館」の雰囲気や図書館に人を引き入れるという好循環を期待するものであります。</p> <p>現状において貴団体と協力関係を結ぶことは考えておりません。</p>
3	<p>(具体的な施策の提案)</p> <p>●施策NO.15に対して、「市内を流れる桂川流域で数少ない広大な田園地帯が広がる久保地区の潜在的な資源を首都圏の人々に周知し、都市住民との交流を推進する拠点として活用すること」を提案する。具体的には、これまでの水田や畑作、花の栽培が継続できるよう都市部住民を招聘し、これからは電車の乗客や溪流釣りなどの多くの方に喜んでもらえる素晴らしい景観を保存できる仕組みづくりを検討してほしい。</p>	<p>久保地区には整備された農地が広がり、所有者の高齢化などにより耕作されず耕作放棄地となることを防止するため、平成27年から県の農地中間管理機構を利用し、外部の農業法人により農地の維持に努めています。現在、法人も2代目となり、新たな耕作者も生まれるなど今後も継続して県とともに農地保全に努めてまいります。</p> <p>将来的にはグリーンツーリズムや農業体験といった都市住民との交流などによる取り組みの可能性も探っていきます。</p>
4	<p>(基本目標に対する基本的方向及び具体的な施策の提案)</p> <p>●基本目標5の基本的方向に「市内在住の外国人の方々が大月市に愛着をもち、地域おこしや人づくりに参画し易い、住み甲斐のある環境をつくる」を追加する。また、具体的な施策として、外国人等の交流する場所の創出や外国人ならではの発想を活かす機会を設けることを提案する。</p>	<p>本計画は、日本人・外国人に区別なく、市内在住の全ての方を対象とした計画となっており、ご指摘の提案につきましては、本計画に含まれているものと考えております。</p> <p>また、ご指摘の外国人の方々に対する取り組みについては、関係部署において、市内で暮らしやすい環境づくりの創出に努めておりますが、今後は外国人の方の活動状況を確認し、交流事業を検討してまいります。</p>

No.	意見等の概要	意見に対する市の考え方
5	<p>(その他)</p> <p>●本市における2040年の将来目標人口である19,000人について、現実的な数値であるが、非常に寂しく、虚しい目標である。この数値目標に対して、本文記載の内容は、意気込みや熱意が感じられないので、改善すべきではないか。</p>	<p>本計画の(1)策定の趣旨に記載のとおり、わが国では、2008(平成20)年を人口のピークに減少に転じ、人口減少・少子高齢化が始まり、依然として深刻であり、東京一極集中に歯止めが掛かかっていない状況であります。その中で、本市における2040年の目標人口は、人口減少に歯止めを掛けた上の現実的な数値目標としています。</p> <p>なお、ご指摘の「熱意の感じられる記載」につきましては、第2期大月市総合戦略の各施策を確実に遂行するよう努めてまいります。</p>
6	<p>(その他)</p> <p>●基本目標1及び基本目標2の合体による重点目標の設定とその具現化について、本計画の中の基本目標1.2を合わせた重点目標を設定して、企業誘致や人口増に直接起因する対策ではなく、地域資源を活用した施策を展開し、的を絞った計画とすべき。</p>	<p>ご指摘の「重点目標を設定すべき」につきまして、本計画は第1期大月市総合戦略を継続することとしており、すべての基本目標が重要な位置づけであると考えております。また、地域資源を活用した具体的な施策は、「施策No.3 本市来訪者の滞在価値の創出」を掲げ取り組んでいきます。</p> <p>具体的には、大月桃太郎伝説をローカルブランドとして確立し、インバウンドに対応したシティプロモーションの展開、地域資源を活用した商品等の開発、地域の特徴を生かしたテストツアー及び自然体験イベントやトレッキングツアー等による着地型観光商品の企画運営、市内飲食店と連携したイベント等の開催、近隣市町村と連携した広域的な観光案内及び特産品の販売を行ってまいります。</p> <p>また、JR大月駅前に設置している大月市観光案内所の改修及び観光・移住等相談事務所の開設を行います。大月市観光案内所を改修することで、販売スペースを広げ、本市の農産物及び加工品及び近隣市町村や県内の物産品を販売し、本市での地域内消費の拡大を図ってまいります。</p>